

世界の水問題解決へ 新技術で挑む



GCUSが発足



下水道グローバルセンター（GCUS）が4月28日に日本下水道協会で発足式を開きました。同センターは、国や地方公共団体およびJICAが実施する国際交流活動に対し、技術的側面を中心とした支援を行いながら海外での現地調査・広報活動▽研修の受け入れ支援、過去の研修実績の評価、蓄積▽対象国・地域のニーズにあった日本の技術の適用支援▽情報共有プラットフォームの構築・国際ネットワークの形成——を行います。本機構では下水道海外ビジネス展開研究会の運営をはじめ、海外での適用可能な技術の開発・提案などの役割を担い、世界の水・衛生問題の解決に向け、積極的に貢献していきます。

7技術に証明書交付



3月31日、本機構では「平成20年度第3回新技術研究成果証明書交付式」を開きました。同証明書は、本機構が民間企業等との共同研究の成果を明確にするためのもので、今回は7技術に交付されました。今後、技術マニュアルに同証明書の写しを添付して国・地方公共団体等に配布していきます。

第273回技術サロン開く

6月11日に第273回技術サロンを開催しました。古米弘明・東京大学大学院工学系研究科教授を講師に迎え、「第8回UDM（都市雨水排水モデル）国際会議をめざして」をテーマに、UDM会議の特色や見どころなどをはじめ、流出解析の基本的な考えから最新の動向に至るまでを詳細に解説していただきました。



新技術セミナー開催



6月12日、ガス協会との共催で東京・港区の発明会館ホールで第47回下水道新技術セミナーを開きました。テーマは「下水道事業における地球温暖化対策」。時宜を得たテーマだけに200人以上が出席しました。基調講演では、花木啓祐・



東京大学工学系研究科都市工学専攻教授が温暖化に関連する下水道事業について、幅広い視野で講演されました。

宮城県で現場研修会

7月3日、今年度第1回目となる新技術現場研修会が開かれました。

地方公共団体や民間企業などから約50人の出席者が見学場所の宮城県・阿武隈川下流域下水道県南浄化センターを訪問。下水汚泥資源化・先端技術誘導プロジェクト（LOTUS Project）の技術として研究・開発された下水汚泥からバイオソリッド燃料を作る汚泥乾燥造粒燃料化施設を熱心に見学しました。

